



●Kero Kero 通信●



崎山小児科・院内報

9月 2022年

小児を対象としたコロナワクチン

2020年1月から流行が始まった新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）は、2022年に入ってオミクロン株の大流行となり、8月21日までの国内累計患者数は約1,700万人、日本国民の13%がすでにかかっている状況です。2022年1月からの第6波、第7波では子ども達の感染が数多く確認されました。崎山小児科でも今年の1月から8月までにおよそ1300人のCOVID-19患者の診療を行いました。その中には2回目を罹患した人も、子どもを含めて10人程度います。一度罹ったからと言って二度目がないというわけではありません。崎山小児科での小児の入院例は生後2か月で罹患した一名が一泊だけ経過観察で入院しただけですが、全国的に子どものCOVID-19患者が増加する中で、極めて少数ではありますが、日本国内でも脳症や心筋炎など重症患者の報告も増えてきました。

その一方で、昨年4月前後から始まった新型コロナワクチン接種は、高齢者ではすでに3回目接種を終えた人が90%を超えています。5歳以上の小児では、2回目接種を終えた人は約18%に留まっています。ケロケロ通信の2022年1月号で、「日本感染症学会が2021年12月16日に発表したCOVID-19ワクチンに関する提言（第4版）で、5～11歳の小児への接種について、子どもたちに接種の機会が与えられることに意義はあるが、罹患したときの不利益とワクチンの安全性を比較しながら慎重な検討が必要という表現に留まり、子どもたちに広く接種を推奨するとは書かれなかった」とお伝えしていました。しかし、その後のオミクロン株の流行では患者の30%程度が20歳未満であること、ならびに日本国内で約280万接種行われた子どもの新型コロナワクチンで重篤な副反応がほとんどみられていないこと、ワクチン接種による発症予防効果、重症化予防効果が確認されたことなどを踏まえて、8月10日に日本小児科学会は「5～17歳のすべての小児に新型コロナワクチン接種を推奨します」と表明しました。

崎山小児科としても接種を受けることをお勧めします。現時点で接種できる国産ワクチンはありません。5～11歳に使用できるのはファイザー社のワクチン、12～17歳に使用できるのはファイザー社とモデルナ社のワクチンです。またインフルエンザワクチンと同時接種することも可能となりました。

音や言葉を聞いて理解すること

音の特徴は1.高さ、2.大きさ、3.音色で決まるとされています。1の高さは「ド」「レ」「ミ」です。2の大きさは、そのまま音の大小です。3の音色の違いは、「ドミソ」の和音と「レファラ」の和音の違いのようなものです。日常生活で私たちが聞いている音は、「ド」「レ」「ミ」のような単純な音ではなく、和音のように「色々な高さの音がそれぞれ色々な強さで混じり合っている音」の方が圧倒的に多く、しかもそれが短い時間で大きく変化しています。したがって、音色の違いを分かるには「どの高さの音が、どんな割合で鳴っていて、それがどのように変化しているのか」というややこしい事を瞬時に判断しなければいけません。耳から入ってきた音は、高さ（神経の種類）と大きさ（神経の信号の強さ）の情報が神経の信号に変えられ、脳に伝わります。脳では伝えられた信号を統合して、音の知覚を行います。音色の知覚はもちろん、音の方向感覚、音が危険性に関連しているかどうかの判別、音が言葉かどうかの判別、言葉の場合はその意味など、これまでの様々な経験と合わせて、音を知覚しているものと思われます。大人はさまざまな音が聞こえてくる中でも自分の聞かざるべき音を抽出して選んで聞くことができますが、赤ちゃんや幼児だとまだそれができません。生まれたときの聴力はとても高いですが、あくまで雑音のない状態でのお話です。雑音の中で初めて聞く「言葉」を覚えたり、会話を成立させたりする能力は、16歳になるまでは獲得が難しいという研究結果もあるくらい、子どもが人の話す言葉を明瞭に聞き取れるようになるのは周りに邪魔をする音が少ないことが基本になるようです。シンプルな聞き取りやすい音と、そうではない音の聞き分けの力が大人と子どもでは大きく違っています。例えば、騒がしい場所で人と話すときに明瞭に聞き取れないことがあります。大人はこうした場面でも話の文脈などから類推して、おおよその会話を成り立たせています。でも子どもはこうした背景にある雑音の中から、音を拾って聞く力はまだまだできません。環境を整えてあげることで聞き取りやすくなるかもしれません。さまざまな場面で色々な経験をして、たくさんのお話を吸収して育っていったら嬉しいですね。



崎山先生の当番日

『府中市市民保健センター』042-368-5311

9/12(月)夜間診療(19:30~22:00)



ケロケロひろば 9月15日を予定していましたがコロナ感染症の流行が続いているためお休みします。